

# 海外臨床薬学研修報告書

研修期間：平成 28 年 2 月 28 日～平成 28 年 3 月 13 日

研修先：アリゾナ大学薬学部

薬学部薬学科 110973319 河合早紀

私は2016年2月28日から3月13日の期間、アメリカ合衆国のアリゾナ州にあるアリゾナ大学薬学部および関連施設での海外研修に参加した。

今回この研修に参加しようと思ったきっかけは、日本の薬剤師の信頼性が危ぶまれる中、米国の薬剤師は国民からの信頼が高く、両国の薬剤師また医療制度の違いを実際に実感したいと思ったからだ。

今回の研修では、アリゾナ大学の授業への参加、CVS 薬局の見学およびアリゾナ大学の附属病院の病棟見学を行った。研修を通して、私が最も感じた違いは「自信」と「積極性」である。前述の通り、私たちはアメリカの学生が実際に受けている授業に参加した。日本の授業形態とは異なり、予習をあらかじめ行い質問が中心の授業であった。薬学生が不明点を見つけたらすぐに質問していたこと、また一部の学生だけではなく全員が積極的に質問していたことに驚いた。受け身ではなく、自ら進んで学んでいる様子であった。また、病棟見学でチーム医療のラウンドを見学した際、実習を行っている学生やレジデントの薬剤師は指導薬剤師や医師に積極的に薬剤選択、投与量、投与方法について提案していた。また、症例報告会やジャーナルクラブに参加した際も、彼らは全く緊張していなかった。さらに発表中、クイズを交え、楽しんで発表していた。この参加型の発表方法からも彼らの積極性が伺われた。授業に参加した際も、「薬剤師はこんなにもたくさんの方が出来る」と表現したり、今後必要となってくると思うからと「フィジカルアセスメント」の授業も導入していた。アメリカの薬剤師はこんなことが出来ると考えて、薬学を学んでいることに気が付いた。病院内の研修では医師や看護師と対等にディスカッションする姿があった。また、医師が薬剤師に薬剤を考えると依頼することもあった。米国ではこのように薬剤師の職能が理解されていることに気が付いた。患者からも薬が処方されている理由を問われた際、自分の意見を述べていることに驚いた。これも日本と大きく異なる点である。

以上の点が異なり、国民からの信頼を得ていると思った。

私も将来、患者さんから信頼される薬剤師となるため米国の薬学生や薬剤師の積極的な姿勢を見習い常に「どうして?」、「他に出来ることは?」など自分に問い続け、今後のアドバンスト活動に取り組んでいきたい。